

令和元年度後期 教養教育科目

「なら学+（プラス）」（地域志向科目）

～奈良を通じて地方創生への知見を深めよう！～



奈良女子大学

やまと共創郷育センター

はじめに

奈良女子大学は、平成 27 年度に文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択され、奈良工業高等専門学校及び奈良県立大学とともに、奈良県内の地方公共団体や企業等と協働して事業に取り組んでいます。本学ではこうした取り組みの一環として、「奈良を知り奈良を好きになる契機とする科目（地方創生理解科目）」として、全学共通の教養教育科目に「なら学+（プラス）」を平成 29 年度から開講しています。

本科目は、従来教養教育科目に開講してきた「なら学」に、地域が一体となって地域が必要とする人材を養成するという COC+事業要素を加えたもので、平成 28 年度に「キャリアデザイン・ゼミナール(C4)」(日本一の奈良を知る)として開講したのち、卒業要件単位に含まれる科目としました。

開講 3 年目となる令和元年度も、奈良県の伝統（地場）産業や基幹産業を中心に各回のテーマを設定し、奈良県をはじめとする自治体や県内企業経営者並びに専門的な業務に携わる方々を実務家教員としてお迎えし、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて講義していただきました。

本冊子は、全 15 回の授業概要の他、課題レポート『奈良への提案』や受講アンケート等を紹介するものです。ご一読下されば幸いです。

本講義を開講するにあたり、ご協力いただきました自治体、企業、団体の皆様にあらためて御礼申し上げます。

令和 2 年 3 月

やまと共創郷育センター長

成瀬 九美

やまと共創郷育センター

特任教授 COC+コーディネーター

前川 光正

令和元年度後期開講「なら学+（プラス）」（地域志向科目）
 ～奈良を通じて地方創生への知見を深めよう！～

この授業は、COC+参加大学、県内自治体・企業から多彩なゲストスピーカーを迎え、様々な視点から奈良の課題や取り組みについて学ぶことによって、問題解決力、提案力を養い、奈良はもちろんのこと、地元に戻っても活躍できる未来の地域リーダーの育成を目指している。今年度は全学部から217人の学生が受講した。講義スケジュールは下記の通りで、授業冒頭には、前回授業の受講生感想と講師からのコメントをもとに振り返りを行い、奈良の課題を様々な他者から学ぶ授業構成として展開し、最終課題レポート『奈良への提案』を課した。

○ 令和元年度 なら学+（プラス）授業スケジュール

	授業内容	ゲスト講師
1	ガイダンス	担当教員・やまと共創郷育センター
2	“なら”でのコンテンツツーリズム ～観光のニーズとその課題～	奈良県立大学 (一社)吉野デジタルズビューロー
3	観光産業への理解を深め、課題を探る	(公社)奈良市観光協会 (一社)飛鳥観光協会
4	女性の多様な生き方・働き方を考える	奈良県福祉医療部こども・女性局女性活躍推進課 チアフル(株)
5	伝統・地場産業（製薬）への理解を深め、課題を探る	奈良県薬事研究センター 佐藤薬品工業(株)
6	奈良の食育・栄養を考える	(株)池利・名阪食品(株)
7	奈良の特産品（柿）を通じたマーケティングを考える	奈良県農林部マーケティング課 (株)マックス
8	伝統産業（林業）への理解を深め、課題を探る	奈良県森林技術センター・(株)イムラ
9	地場産業への理解を深め、課題を探る	河村繊維(株)・国広産業(株)
10	奈良の現代産業に聞く	(株)ATOON・DMG森精機(株)
11	地方自治体の役割・課題を探る	奈良県地域振興部・下市町総務課
12	生活福祉を考える	奈良佐保短期大学生生活未来科 奈良県社会福祉協議会
13	これからの地域社会と科学・技術の関係を考える	奈良工業高等専門学校
14	「課題発見・問題解決・提案力を養う」その1 昨年度提案プラン紹介とプランニング講演	担当教員・(一財)南都経済研究所
15	「課題発見・問題解決・提案力を養う」その2 学生による地域活動事例発表と「奈良への提案」の 発展応用ならびに振り返りレポート	担当教員・やまと共創郷育センター

○ 本科目の受講生

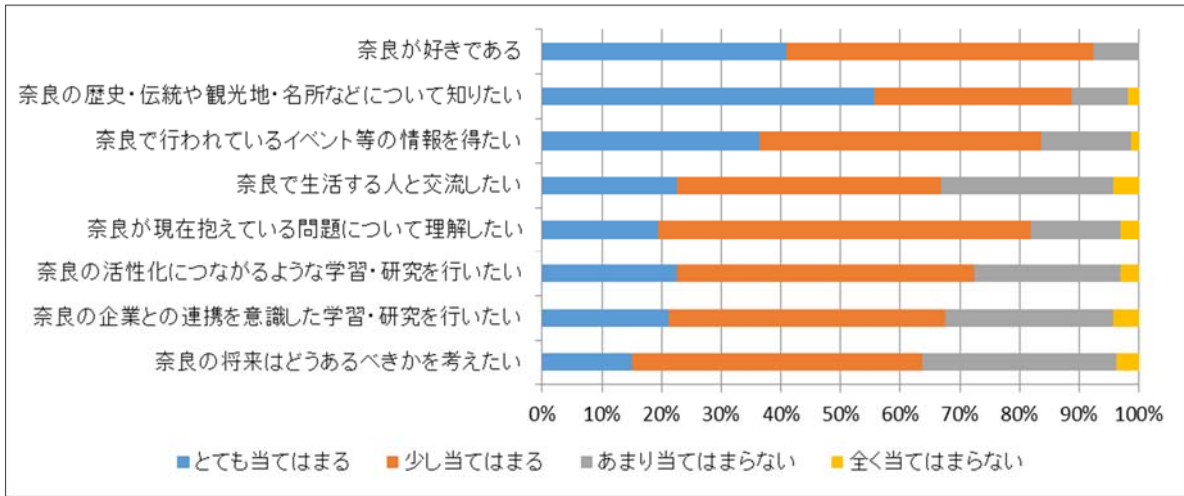
所属学部と回生

	文学部	理学部	生活環境学部	計
1回生	74	22	75	171
2回生	7	9	2	18
3回生	13	4	7	24
4回生	1	0	3	4
計	95	35	87	217

○ 受講動機

ガイダンス時に、奈良への興味・関心などを尋ねた。多くの学生が「奈良が好きである」、「奈良について知りたい」、「奈良が抱えている問題について理解したい」と回答した。

(有効回答数は160人)

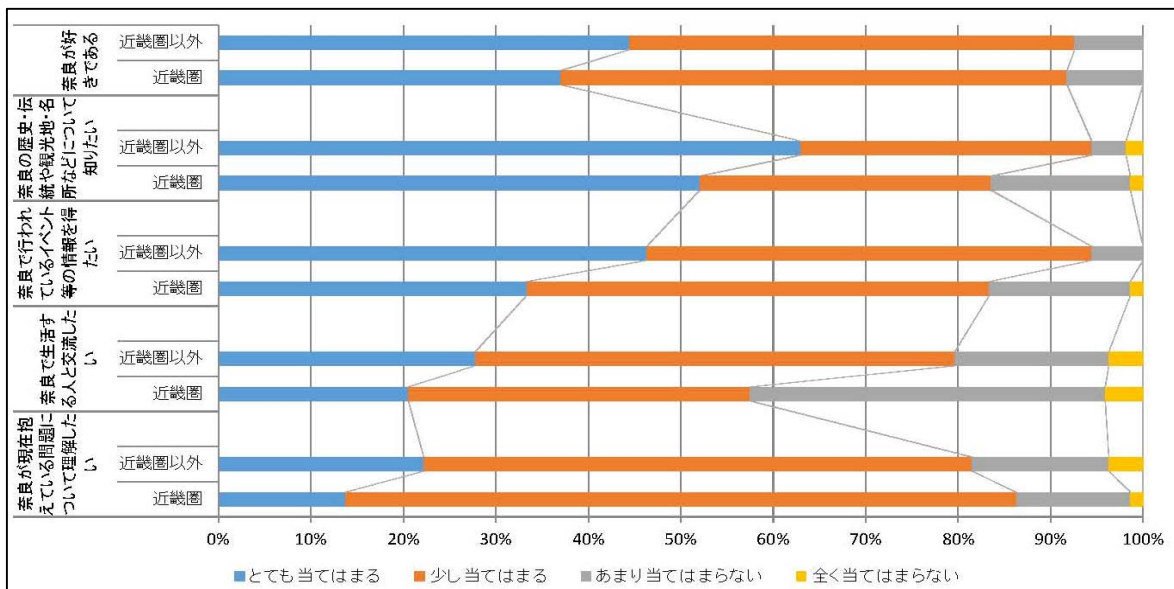


1回生近畿圏外学生(55人)と1回生近畿圏学生(73人)の受講動機を比較した場合、

- ・奈良の歴史・伝統や観光地・名所などについて知りたい
- ・奈良で行われているイベント等の情報を得たい
- ・奈良で生活する人と交流したい

の項目において、近畿圏外学生がより強く意識してこの授業を受講している。

(北海道1人、東北2人、関東6人、中部27人、中国3人、四国7人、九州・沖縄7人、海外2人)



1. ガイダンス (令和元 10月1日実施)

やまと共創郷育センター センター長 成瀬 九美
同 特任教授 前川 光正

ガイダンスでは、授業スケジュールならびに、授業概要、学習到達目標を説明した。

(1) 授業概要

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に関連した授業である。県内企業や自治体、奈良高等専門学校や奈良県立大学、奈良佐保短期大学から多彩なゲストを迎え、「奈良」をフィールドとして地域社会の抱える問題を見つけ、その解決策をともに考えてゆく。奈良で働く人からのメッセージを受けてキャリアプランを豊かにし、地域で活躍できる人材の育成を目指す。

(2) 学習到達目標

奈良に関する基礎的な知識を身に付け、課題発見、問題解決、提案力を養う。
生きた「知」を身につけた未来の地域リーダーを育成する。

(3) 授業スケジュール

なら学+(プラス) 開講予定!

物産多様なゲスト講師をお招きし、奈良の取り組みや課題についてお話しいただきます。奈良の魅力に加えられると同時に、地域が抱える問題を見つけ、その解決策・地方創生について一緒に考えましょう。「奈良は大学生活で充分」「奈良は楽しい」「川舎で地味な奈良では働きたくない」という学生大歓迎!

後期 火曜 5,6限 13時~14時30分 S235教室

●1回目● 10月2日(火)	ガイダンス やまと共創郷育センター長 成瀬 九美 COC+コーディネーター 前川 光正	●2回目● 10月9日(火) 奈良県立大学 特任准教授 志本貴士氏	●3回目● 10月16日(火) ①奈良市観光協会 ②奈良県観光協会	観光産業への理解を深め、課題を探る
●4回目● 10月23日(火) ①奈良県女性経済推進課 ②Table a Cloth	●5回目● 10月30日(火) 奈良佐保短期大学 准教授 武田千寿氏	●6回目● 11月13日(火) ①奈良県社会福祉協議会 ②(社)福 助有会	●7回目● 11月20日(火) 奈良工業高等専門学校 准教授 橋本信也氏	生活福祉を考える 地域社会における 課題発見の段階

●8回目● 11月27日(火) ①奈良県産林産物センター ②A・Iムラ	●9回目● 12月4日(火) 奈良県制粉工業組合 (赤十字)	●10回目● 12月11日(火) ①奈良県農事研究センター ②田村保良工業株	●11回目● 12月18日(火) 奈良工業高等専門学校 教授 藤田直平氏	●12回目● 12月25日(火) ①A・I TOWN ②DMG産科産機	●13回目● 1月9日(火) ①奈良県農林部 ②池田マックス	●14回目● 1月22日(火) ①下市町地域づくり推進課 ②奈良製紙協会の4社	●15回目● 1月29日(火) 南知経済研究所
--	---	---	---	--	---	--	-------------------------------

この授業は、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学の4校が連携しCOC+を実施して実施します。
・大学4講義等の都合により、授業内容や順序を変更する場合がございます。
・奈良工業高等専門学校・奈良県立大学・奈良佐保短期大学の学生にもお招きいただき、様々な専門分野からの視点でも奈良を考えます。

＜お問い合わせ先＞ やまと共創郷育センター
T.E.L: 0742-20-3989
e-mail: coc-yamato@cc.nara-wu.ac.jp



2. 「なら」でのコンテンツツーリズム～観光のニーズとその課題～（令和元年10月8日実施）

奈良県立大学 特任准教授 増本 貴士 様
（一社）吉野ビジターズビューロー 事務局長 山本 訓弘 様

（1）授業概要

COC+参加校で地域創造学部を擁する奈良県立大学から「観光」をテーマにしたコンテンツツーリズムの講義を、吉野ビジターズビューローから「吉野」のコンテンツツーリズム事業について講義をいただいた。吉野では桜や紅葉の季節と閑散期により観光入込客数に大きな変動があり、1年間を通した観光にかかるコンテンツづくりに注力しているとの説明があった。

（2）学生の意見や感想（抜粋）

- ・日本のアニメは海外からも注目を浴びているのでインバウンドにも有効と思いました。
- ・アニメが昔のモノになってもコンテンツツーリズムを続ける方法を考えなければならないと思った。
- ・奈良の伝統・歴史にあまり馴染みのない若い世代をターゲットにした観光産業が必要であると思いました。
- ・奈良で埋もれている魅力を自発的に発信しなければならないと思う。

（3）授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県立大学 増本先生から

コンテンツツーリズムは、「地域を活性化させる」ための一手法であり、皆さんのような若い世代が日本各地の舞台を観光し、地元の方々と話し、飲食・宿泊・お土産等でお金を使うと“地域活性化”や“地方創生”になると考えます。

吉野ビジターズビューロー 山本様から

アニメや漫画は皆さんの世代に馴染み深いものだと思いますが、観光の本質的なところ（見たことないものを見に行く、体験しに行く）とは少し離れたところにコンテンツツーリズムはあるのかもしれませんが、ただ、コンテンツがきっかけとなり、何度もその地域を訪れ、ファンになってもらう、という活動は、観光産業だけでなく様々な産業でも応用できるものだと思います。

（4）授業成果（担当教員 前川コメント）

「吉野といえば桜」「桜と言えば吉野」と言われていますが、桜以外にも吉野には、歴史・史跡・森林(自然)などたくさんの魅力がある。様々な世代の人や国内外の人々にこうした魅力をいかにして発掘・発見・発信していくかということが大切である。地元の人々が当たり前と思い、気付いていない貴重な魅力を提案するのも奈良で学ぶ学生の役割かもしれない。



3. 「観光産業への理解を深め、課題を探る」(令和元年10月15日実施)

(公社)奈良市観光協会 専務理事 高橋 一様
(一社)飛鳥観光協会 福田 史織様



(1) 授業概要

奈良市観光協会からは、奈良の観光の現状と大阪・京都への近接ならびに人気があるのに滞在時間が少ないといった課題、観光情報の多様化への対応の話の他、奈良市観光協会の事業計画について講義いただいた。一方、飛鳥観光協会からは飛鳥の観光資源は豊富だがこの歴史的景観は村民の努力により保持されていることや、「観・感・泊・食・買」をキーワードにした「明日香まるごと博物館」実現に向けた取組について講義いただいた。

(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・歴史的なものや世界遺産以外に魅力を感じられない！交通の便も良いとは思えない！
- ・明日香村での民家ステイ。素敵です。もっと知名度が上がればよいと思います。
- ・インバウンド目当てのドラッグストアとチェーン店の飲食店ばかりが目立ち、問題です。
- ・受験のときに宿泊に困った。気軽に泊まれるホテルを充実させてはどうか？
- ・バスターミナルに隣接させるのは県庁ではなく、商業施設だと思います。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良市観光協会 高橋様から

奈良は世界遺産級の社寺、鹿、大阪・京都への近接性のおかげで、特に何もしなくても歴史ファンと修学旅行が集まり、長い間それに依存してきた歴史文化モノカルチャー都市です。しかし、奈良市が経済発展を目指すなら、大阪・京都のような「買・食・遊・泊」と多様な素材を有する総合観光都市に対抗して、様々な情報を国内外の「発地」において十分に届ける必要があります。

飛鳥観光協会 福田様から

私は奈良が好きです。奈良県は世界遺産を多く有し、歴史、寺社仏閣、信仰、自然など多様な文化が育まれている面白い県だと感じているからです。奈良の人が奈良を知らない！商売っ気がない！交通の便が悪い！PRが足りない！美味しいご飯がない！等課題は沢山ありますが、皆さんもたくさん出かけていただき、見て体感し、皆さんが感じる「奈良のいいところ」をぜひSNSや友人にPRしていただき、奈良県の観光の手助けをしていただけたらと思います。

(4) 授業成果(担当教員 前川コメント)

現在インバウンドで奈良駅の近くは大変賑わっている。一方、日本の歴史のふるさとと言われている飛鳥の方ではそれほど恩恵は受けていないようである。奈良には観光の素材になるものが溢れすぎているのかもしれない。本日は、観光に携わるプロの方から様々な課題や課題解決に向けての具体的な取り組みといった貴重な話をいただいた。



4. 「女性の多様な生き方・働き方を考える」(令和元年10月29日実施)

奈良県 福祉医療部こども・女性局女性活躍推進課 係長 塚本 功 様
チアフル(株) 代表取締役 松本 梓 様

(1) 授業概要

行政の立場と実際に起業された方の双方から『女性の多様な生き方・働き方を考える』授業を実施した。奈良県における女性の就業率、女性の管理職比率や大学進学率などデータにて客観的に示され、行政による女性に対する支援策について講義を受けた。チアフル(株)の松本様からは、『起業』は目的にするものではない。この商品売り出せば、生活も豊かになり、地域も元気になる」という発想を行動に移した結果、「起業」となった経緯や、将来の選択肢となるとの講義を受けた。



(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・奈良県民の固定的性別役割分担意識の高さ、女性の就業率や共稼ぎ率の低さに驚いた。
- ・女性が社会に出やすい環境づくりは、行政に任せるだけでなく私たちも協力して行動を起こしていく必要があることがわかりました。
- ・女性をもっとどんどん働きにでて、男女共に家事をしていく、という考え方が当たり前になってほしいと思いました。これを実現していくには私たちの世代が鍵を握っているのでは、と思います。
- ・起業は、「儲け」などの利益のイメージが先行してしまいがちですが、もともとは『世の中を便利にしよう』という発想がベースにあるのだと思います。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県女性活躍推進課 塚本様から

女性の働き方を中心に、「ジェンダー平等」「男女共同参画」についてお話ししました。小さなことに気づき、考え、それを誰かに話すことで、多くの方がジェンダー平等の視点に触れる機会を作っていただけると幸いです。

チアフル株式会社 松本様から

女性であることに悩むことも、励みになることもあると思いますが、もっと自由な発想と感受性で、たくさんの人たちと出会い、公私ともに多くの経験を積んでもらいたいです。そして、世の中の常識や周囲の評価に振り回されることなく、その時々で感じる気持ち・心の声に正直になってください。現在あるものから選ぶだけでなく創り上げていく選択肢も視野に入れて自分の人生を存分に楽しく前向きに実りあるものにしてください。



(4) 授業成果(担当教員 前川コメント)

奈良県における女性の就業の現状や県の取組等、将来のキャリアプラン・ライフプランを描く際に、就労継続を意識することの重要性を啓発する機会となった。女性活躍推進法、奈良県女性活躍推進課、女性の起業といった「女性」という言葉が冒頭につくようなことがない普通の社会をつくるのが重要だと考える。絶えず問題意識を持つことが大切で、「チャレンジ」「行動」を起こす勇気ももらった。

5. 「伝統・地場産業（製薬）の理解を深め、課題を探る」（令和元年11月12日実施）

奈良県 薬事研究センター 主任技師 蔦原 稜太 様
佐藤薬品工業(株) 総務部課長 前田 晋也 様



(1) 授業概要

奈良県薬事研究センター蔦原様から、生薬・漢方薬、奈良の薬の歴史、地場産業として発展してきた理由や、配置販売等奈良の薬の町の特色等の説明を受けた。続いて、橿原市に本社のある佐藤薬品工業(株)前田様から、会社の概要、沿革をはじめ、経営理念、特に製薬会社として「信頼に応える」ことの積み重ねが会社を支える。モノづくりは人づくりであること、奈良女OGが活躍していること、地域貢献が、新たな開発に繋がると講義をいただいた。

(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・薬狩りや森野旧薬園のことを聞いて、奈良と薬の深いつながりが理解できました。「漢方のメッカ推進プロジェクト」としてのストーリーにも興味をひかれた。
- ・配置薬というシステムは、薬局が多く存在する現在では使用者も減っているだろうと思いますが、アピール次第でニーズを掘り起こし、使用者をまた増やすことのできるシステムだと思います。
- ・佐藤薬品工業さんの男性よりも女性の方が多い部署の話や、女性が活躍し、女性も働き続けやすい組織体制会社や地域との交流を大切にされている話を聞いて良かったです。同時に奈良女卒業生の活躍の場や企業の内側の話も聞いて、今後の参考になる授業でした。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県薬事研究センター 蔦原様から

奈良県はかつて朝廷がおかれ、疫病に備える意味でも薬用植物の栽培等がとても盛んな地でした。今回のような歴史からも、自分が将来何をしたいのかが見えてくるかもしれません。学生時代は将来のことを考えるととても大事な時間です。このように授業で様々な業種のことを勉強できる機会は滅多にありません。この授業を通して、製薬業界に限らず、皆さんが将来やりたいことを見つけることができればと思います。

佐藤薬品工業(株) 前田様から

弊社の女性社員のイキイキと仕事してくれている様子は伝わりましたでしょうか？まだまだ女性管理職者の比率が低いと云うことが課題ですので、今後の制度整備の向上を図ってまいりたいと考えております。また、佐藤薬品工業(株)に少しでも興味を持ってもらえたならば、是非とも会社見学やインターンシップにご参加頂ければと思います。お気軽にお声がけください。

(4) 授業成果（担当教員 前川コメント）

「私は、化学コースなので将来製薬企業で働いてもいいのかな」という感想があったが、モノづくりの会社が理系の学生だけを求めているわけではない。すべての業種に文系・理系に関係なく女性の活躍の場は用意されているように感じている。



6. 「奈良の食育・栄養を考える」 (令和元年 11 月 19 日実施)

(株)池利 専務取締役 池田 利秀 様
名阪食品(株) 仕入部係長 上田 稚子 様

(1) 授業概要

奈良の「食」を考える授業として、三輪そうめんの(株)池利ならびに介護食「そふまる」を開発・商品化されている名阪食品(株)から講義いただいた。(株)池利池田様からは三輪そうめんの由来や歴史、素麺の作り方、うどんと比べて製造原価が高いといった話を、名阪食品(株)上田様からは管理栄養士の立場から、高齢者向け介護食の商品開発に向けて様々な課題を乗り越えなければならないが、おいしく食べていただくことによる「やりがい」について話を聞かせていただいた。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・三輪そうめんがGIマークを取得しているというのは初めて聞いた。(が、GIマークがそれほど認知されていないのが悲しい)
- ・ト定祭による資本主義的でない商品価格の決め方はとても貴重。末永く続くことを祈っています。
- ・「そふまる」は、噛むことや飲みこむが難しくなっても、食事を楽しむことができるので素敵だと思った。
- ・開発・商品化など新しいことを始めるには大変な苦労があることもよくわかりましたが、私も人を幸せにできる商品開発に携わりたいと思います。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

(株)池利 池田様から

我々のお客様は団塊世代以上が多く、講義の内容も堅苦しい物になりましたが、アパレルのイベントに出店し、七色に光る流しそうめんなども行っています。もし、三輪素麺をご賞味されるなら、池利素麺茶屋「千寿亭」にお越しください。工場見学も来てください。

名阪食品(株)上田様から

時間の制限もあり、簡単な説明になりましたが、食品「そふまる」に興味を持ち、共感していただけたことが伝わりました。私は開発者として、色んなものを食べたり、お店を見たり、旅行に行くことを積極的するようにしています。学生生活での経験は今しか得られない大きな財産ですので学生の皆さんも、食べたり、見たり、旅行したり、アルバイトをして学んで感じてほしいです。



(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

三輪そうめんに関しましては、知らなかった人もたくさんいたが、認知度(ブランド)を上げるための様々な意見や感想が目についた。名阪食品(株)の「そふまる」に関しては、『食べる』という行為についての考察というか、食べる楽しみを失わせない信念、明日への活力・希望の源の観点からの素晴らしい気づきが多くあった。

7. 「奈良の特産品（柿）を通じたマーケティングを考える」（令和元年11月26日実施）

奈良県 農林部マーケティング課 濱崎 貞弘 様
(株)マックス 代表取締役社長 大野 範子 様



(1) 授業概要

生産量全国2位の「柿」をもとに、奈良県農林部濱崎様から「柿」の栄養素、加工・利用の話、抗酸化作用のある柿の葉ビジネス、柿渋の利用方法、柿タンニンの抽出方法や柿タンニンサプリメントの話などを、(株)マックス大野社長からは、柿の葉や消臭効果や広範な健康機能性を持つ柿のエキスを利用した製品開発と商品開発・販路・プロモーションなどのマーケティングの講義をいただいた。

(2) 学生の意見や感想（抜粋）

- ・柿についてそのルーツや成分、効能を知ることができて面白かった。タンニンのサプリメントなどまた気になるので個人的にも調べてみたい。
- ・葉っぱの加工や細工は内職でもできることがあるので、外に出て働くのが難しい、子育て・介護中の女性の活躍の場にもなりうると思いました。
- ・柿は食物繊維も多く含まれていて、様々な効果があるため民間薬として使われていたと聞いて、柿の魅力が増しました。また、(株)マックスさんのお話からはオール奈良で良い商品を開発するという熱意が伝わってきました。現代的な広報や販路を実施、計画されていてとても興味深かったです。特に、工場や会社見学、コスメ作り体験、宿泊施設のアメニティは魅力的だと思いました。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県農林部 マーケティング課 濱崎様から

「柿」の魅力について足早にご紹介しましたが、まだまだ語り尽くせない話がたくさんあります。今回の講義を通じて少しでも奈良県の柿に興味を持っていただけたなら、皆さんの日々の生活の中で是非柿を取り入れて、その魅力を感じていただければ幸いです。

(株)マックス 大野社長から

奈良の柿マーケティングに関して、皆様と一緒に学びの時間を共有することができ、私も多くの刺激を受けました。今回のコスメ開発は、「地域と力を合わせて」「地域を活性化する」ということにも注力しているのですが、そこへ共感していただける感想を多くいただいて、とっても嬉しく思います。また、美容マスクのバリエーションの提案など、貴重なご意見も沢山いただきましたので、今後の商品開発に活かしてまいりたいと思います。

(4) 授業成果（担当教員 前川コメント）

受講者の多くは、「柿」は食べるものとの認識であったが、今回の授業を通じて、衣・住にも様々な形で活用できることには知らない学生が多かった。「若い世代の人が奈良の農作物に興味を持ち、奈良の農業の活性化につながる商品開発が奈良の発展に不可欠である」といった感想もあり、日頃、マーケティングについて考える機会の少ない学生に多くの気づきを与えることが出来た。



8. 「伝統産業(林業)への理解を深め、課題を探る」 (令和元年12月3日実施)

奈良県 森林技術センター 所長 高橋 龍治 様
(株)イムラ 企画室長 井村 真輝 様

(1) 授業概要

奈良県森林技術センター高橋所長から奈良県の森林の状況、吉野林業の歴史や吉野杉と他府県杉の年輪等の特徴の他、吉野杉でできたバイオリンの紹介、奈良県の木材が健康に良く、今の気遣いが100年後の森を作っているとの講義を受けた。川上村産の木材を活用したハウスメーカー(株)イムラ井村様からは、吉野杉の良さと共に後継者不足、吉野林業の衰退が過疎化を招いている危機感から吉野林業の再興という使命をもって事業を展開している授業を受けた。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・500年の歴史を持つ吉野林業がいかに伝統的で貴重なものであるかがよくわかりました。しかし川上村の例のように、海外の安価な輸入材の流入により国内の林業が衰退し、林業をよりどころにしていた地域までもが衰退してしまうのは、とても悲しいことだと感じました。イムラさんが行っている取り組みのように、生産者とエンドユーザーの仲立ちをし、地産地消を実現することは、今の世の中において本当に大切なことだと実感しました。
- ・吉野杉は昔から有名でどこか高級感のあるイメージを持っていたのですが、どういう特色があるのかなどについてはこれまで全く知りませんでした。奈良県の木材がダニの忌避効果・インフルエンザのウイルスの感染力低下・臭気減少に役に立つと知って本当驚きました。木材の短所の1つである、カビについても対策が取られていて、もっとこういった良さを世間の人にも知ってほしいなと思いました。木材で作ったかわいい雑貨やアクセサリなどをもっと作れば、身近におけるものから良さを知ってもらいきっかけにもらえるのでは、と思いました。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良県森林技術センター 高橋所長から

私は、奈良県の吉野スギ・ヒノキは大変美しいものだと思っています。山の斜面を何時間もかけて登り、苗を植え、手入れをした先人の方々。当然、自分の代(生涯)では、収入にはなりません。子供達や、地域の繁栄を願ってスギ・ヒノキを育てたのです。見た目だけでなく、その願いの美しさも感じていただければ幸いです。

(株)イムラ 井村様から

日本の山間部は現在急速に過疎化が進み、奈良県川上村の過疎化も深刻化の一途をたどっています。なんとかそのような状況を食い止めるには木材の出荷量を増やすのが一番のカンフル剤であり、そのために特に有効な手段が木造住宅の建築であると考えております。そのためにはエンドユーザーのニーズを把握し、産地に対して情報共有を図ることが弊社のミッションになります。このような取り組みにご興味のある方は弊社のHPや展示場を是非覗いてみてください。



(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

今回は「衣・食・住」に係る「住」の分野で奈良県の伝統産業であるが後継者不足等様々な課題を抱える吉野林業の授業を実施いただいた。受講生は奈良県産と他府県産との杉のサンプルを手にとって、匂いをかいで年輪や香りの違いに驚いた様子であった。奈良県産の木の良さをバイオリンにて発信し、少しでも、興味を持ってくれる人を増やすといった発想への賛否、奈良の伝統産業の林業を続けていくことの重要性和課題を自分の問題として考えることが出来た。

9. 「地場産業への理解を深め、課題を探る」 (令和元年12月10日実施)

河村繊維(株) 総務部係長 山中 啓介 様
国広産業(株) 代表取締役 影石 崇 様



(1) 授業概要

河村繊維(株)山中様からは、奈良の靴下生産量が日本一であり、その歴史的背景や現状、課題などに触れられ「健康」「こだわり」をもって変革を乗り切るとの講義をいただいた。プラスチックバレルメディアの国内シェア70%を占める国広産業(株)影石社長からは、バレルメディアの将来性や無限の可能性や環境に配慮した製品づくり、どのようにして付加価値を生み出すのかといった講義をいただいた。

(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・奈良県が靴下の生産量全国1位というのは知りませんでした。河村繊維(株)さんも国広産業(株)さんも、消費者でなく企業を相手にしているので名前もあまり知らなかったのですが、ある業種で高いシェアを占めていたり、縁の下の力持ちのようだなと思いました。また、バレル研磨についても全く知らなかったのですがプラスチックメディアやコンパウンドを変えることで仕上がりが変わるというのが面白いと感じました。地場産業についてよく分かってなかったので知れて良かったです。
- ・プラスチックの研磨剤の話が面白かったです。奈良県でそんなことをしているとは全く知らなかったもので、自分が知らないだけで地元で色々な産業が発達しているのだとわかりました。爪の先ぐらいの小さい研磨用のプラスチックもあり、これが様々な精密機器の製造を支えているのかと考えると、こんなすごい技術があまり知られず埋もれてしまうのはもったいないと感じました。OEM企業の情報も拡散していくことは、学生にとっても企業にとっても事業を知ってもらうためには非常に重要なのだと感じました。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

河村繊維(株) 山中様から

奈良の靴下生産量が日本一である一方、ファッションブームや海外製品のあおりを受けて、衰退してきているという事実も素直にお伝えさせて頂きました。しかし、我々には伝統ある繊維産業の地「奈良」で培った先人の想いを継承していく使命と覚悟があります。時代のニーズに応えた健康志向な靴下や医療用弾性ストッキングなど、これからの奈良の靴下産業にどうぞ期待し、応援してください。

国広産業(株) 影石社長から

企業はその大小や業種にかかわらず、各々の持ち味や役割を持っています。それは皆さんにも同様にいえます。また、その持ち味は一度触れるだけでは分かりません。色々なものに触れ、五感で感じ、そして out put することが人間の幅を広げ、感性を高めるように感じます。学生時代は、さまざまなことにチャレンジできる絶好の機会です。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

奈良県の産業は観光や伝統産業のみといった固定観念や B to B 企業といったことから両社ともトップクラスの技術力をもっているにも関わらず学生の認知度は低い。靴下業界、プラスチック業界からゲスト講師をお招きし、「地域を元気にする、地域が元気になる地場産業」の講義を実施し、様々な課題を学生と共有しながら、「知識と技能と創造性」をもって時代の変革を乗り切るチャレンジ精神を涵養させる授業になった。



10. 「奈良の現代産業に聞く」 (令和元年12月17日実施)

(株)ATOUN 代表取締役社長 藤本 弘道 様
DMG 森精機株 システム企画部長 柏木 悟 様

(1) 授業概要

(株)ATOUN 藤本社長からは、ベンチャー企業として企業ビジョンやパワーアシストロボットがもたらす近未来社会や生活について講義いただいた。DMG 森精機株柏木様からは、奈良で生まれた会社がお客さんと共に成長して世界のトップ企業になった会社経緯・会社の理念や目標の他、最新の工作機械について映像を交えながら紹介いただき、工作機械の無限の可能性について講義いただいた。



(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・ATOUN さんの話では言葉で表現し共有すること、繰り返し再考してより良いものを創造していくことの大切さを学んだ。これはどんなことにも活かせるし、活かしていくべきで、商売の仕方のようなものも学べた気がする。DMG 森さんでは、工作機械の必要性や精密さ、今後の展望などを知れた。私は文系なのでこの分野は知らないことが多かったが色々なことを知れて面白かった。
- ・奈良は歴史的意義の深い古都であると同時に、ATOUN や DMG 森精機のようなハイテク産業も盛んな、「過去」と「未来」の両面から見て自慢できる都市だということが分かりました。どちらの企業も、労働人口の減少や高齢化といった将来の問題解決への一つの方策を提示しているという点で共通していると思う。
- ・歩行支援用のロボットがあることはかなり幅広いジャンルの人に影響を与えると思う。腕のアシストや南都銀行での試行など、まずは奈良の企業からそのシステムを取り入れていき、全国に広まり、本当に必要としている人に届いて欲しいと思う。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

(株)ATOUN 藤本社長から

奈良に変わった企業があることを知っていただけたかと思いますので、少しでも興味があれば、気軽に会社見学にお越しください。また、テクノ女子会の運営を手伝っていただけるボランティアも募集しています。多様性で社会にイノベーションを起こすきっかけづくりを手伝ってください。

DMG 森精機株 柏木様から

当社の技術力及び工作機械業界全体のこれからについて、広く知っていただけるいい機会であったと考えます。文明社会に不可欠である工作機械は、我々の生活を豊かにしてくれます。奈良県にもハイテク産業があり、企業の大小にかかわらずチャレンジし邁進しています。学生時代は「知らないこと」「わからないこと」がたくさんあるかと思います。しかし、そこから逃げているは前へ進む事ができません。何事に対しても新しいことに進むチャレンジ精神を持つことで、今後の生活においてもまた、違った活躍ができると思います。



(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

「奈良は1000年前に終わっている」という藤本様のお話は学生にもいささかショックを与えたが、「歴史に目を向けて、機会を逃してはならない」という話が印象的で、未来を見据えた動きが奈良から始まっていることや奈良の企業が社会を変革していることが理解できた。また人工関節などの先進技術の様子を見ることにより、工学の楽しさにも触れることができた。

1 1. 「地方自治体の役割・課題を探る」 (令和元年 12 月 24 日実施)

奈良県 地域振興部次長 谷垣 裕子 様
下市町 総務課課長補佐 松原 正城 様
同 主事 野木 起美 様

(1) 授業概要

下市町総務課松原様・野木様から、下市町の概要説明の後、過疎化・高齢化が進行するなかで「元気」をキーワードとして住民が立ち上がっての地域創生の話をついた。また奈良県地域振興部谷垣様からは、「地域振興を通じて、県民の幸せ・居住満足度を向上させる」ことを常に意識しながら県政を推進していることや奈良県という個性にこだわって取り組む行政の仕事の楽しさを語っていただいた。

(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・下市町のお話では、何から何まで自治体がやるのではなく必要ところで手助けや支援をする、というスタンスが成功の秘訣なのかなと思いました。住民自ら地元の良いところを考えるという行為そのものにも大きな意味があるように感じました。谷垣さんのお話では、観光振興によって生じるプラスとマイナスについて考え、お金儲けだけに目を向けないというところにハッとしました。どうしても地域のためになること＝地域にお金を落としてもらうこと、というふうに考えてしまいがちでしたが、そんなに単純なことではないのだと改めて気づかされました。
- ・地方自治体の役割は県民の幸福を増進していくことなのだと感じた。今まで教科書で習うような地方自治体の役割しか知らなかったのが、実際に現場で働いている人の声を聞いて仕事内容だけでなく、地域のコミュニティを形成している立役者なのだということも理解することができたのでよかった。講師の先生が最後におっしゃっていたすべての仕事は誰かの幸せのためにあるという言葉はすごい印象に残っていて、意識してなくても気づいたら誰かの幸せのために働ける社会って素敵だなと感じた。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等 奈良県地域振興部 谷垣様から

私は奈良県庁一筋 34 年という働き方ですが、今後働き方はどんどん多様化していきます。ぜひこれまでの働き方の常識にとらわれることなく、この環境のよい奈良に住み奈良県内の働きやすい企業に勤める、また、奈良に住まいながら、IT を駆使して世界を相手に仕事をするベンチャー企業を立ち上げる、など、色々な可能性を探り、試し、調べ、考え、行動してほしいと思います。



下市町 野木様から

学生の時に、学生の中にしかできない経験をたくさんしてください(いろいろな職種のバイト、いろいろなことに挑戦する、時間をかけて 1 つのことに取り組む、友だちとたくさんの時間を共有する、一人でどんなことができるかに挑戦する等)。それが社会人になったとき、多くの知識や経験となり考える力の基になると思います。そして今後、同じ働く女性として皆さんが社会に出られることを楽しみにしています。



(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

下市町からは、地域住民が一致団結して地域の活性化の取り組みをしており、住民の立場での地域の維持・コミュニティの継承の重要性を、奈良県からは本学 OG の立場から、「すべての仕事は誰かの幸せのためにある」「自分は何によって人の幸せに貢献できるのか」を問いかげながら、働きがいや自身のキャリア経験を披露いただき受講学生にとって今後の就職や自己の成長に対する心強い応援メッセージとなった。



12. 「生活福祉を考える」 (令和2年1月7日実施)

奈良佐保短期大学 生活未来科 准教授 武田 千幸 様
奈良県社会福祉協議会 主幹 岡本 晴子 様



(1) 授業概要

COC+協力校である奈良佐保短期大学武田先生から「介護」「障害の概念と分類」「介護保険制度」などすべての世代の人々が対象となる社会福祉について講義いただいた。また、加齢による体の変化、心の変化や、福祉と介護は日本で生活するすべての人々の課題であることを講義いただいた。奈良県社会福祉協議会岡本様からは、地域の暮らしを支える福祉実践が地域創生とどのようにつながっているかについて事例を交えて講義いただいた。

(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・「生活の中に福祉は存在しているから、生活と福祉は切り離せない関係にある」という言葉を聞いて、福祉について理解できた気がする。今まで高齢者のためのものばかり考えていたが年齢を問わず障害者なども福祉を受けていることを改めて理解した。地域の福祉を受けなければならない人たちは、都市の福祉を受けている人に比べてあまりたくさん福祉を受けられないと思う。そうすると地域に人が住めなくなると感じた。きちんと福祉を受けられる施設を設備することで、人口減少が防げるのかなと思った。
- ・今まで福祉と聞くと高齢者の方の問題だという認識でした。しかし保育園に行っていたことが既に福祉のお世話になっていたということで、長い間身近な存在であったと分かりました。高齢化が進む中で1番の課題は高齢者の方々の生活をケアしていくことです。そんな中で、ただ介助の技法を学ぶだけでなく利用者の自立を維持して全てを助けるのではなく支援する、という視点が大切であると知りました。まずは関心を持ってこの課題を見るのが重要だと感じました。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

奈良佐保短期大学 武田先生から

今回の講義が皆さんにとって何かのきっかけになればと思います。基本的にはできる所はしてもらるように意図的に関わりますが、対象者も人間です。「今はしたくない」と思うことがあって当然。それが人間らしさです。その時はなぜそう思うのかを聞いたり、察知したりしながら、お手伝いすることもあります。その関わりの積み重ねがその方の今後の意欲につながっていけばいいのです。

奈良県社会福祉協議会 岡本様から

福祉というテーマを、身近に感じていただいたという声も多く、嬉しく思いました。「住み慣れた地域や家で最期まで暮らしたい」と思っている、それを阻む事情や不安を解消していかなければ、本心を声にすることはできないのかもしれませんが、多くの方が心にとめていただいた「助けられ上手」が、そういった不安要因を乗り越える第一歩になることと思います。多様なコラボで福祉にアプローチする時代が来ました。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

日頃、福祉に関する授業を受ける機会の少ない受講生に向けて講義をいただいた。福祉の問題を福祉の分野だけでは解決するのが難しい時代がきているため、まずは「福祉」に関心を持ち、それぞれの人のちょっとした困りごとを聞いて、その解決策を横断的にいろいろな分野の中で考えていくことにより、高齢者福祉や障害者福祉が、地方創生の分野ともつながることが理解できた。



13. 「これからの地域社会と科学・技術の関係を考える」 (令和2年1月14日実施)

奈良工業高等専門学校 准教授 竹原 信也 様

(1) 授業概要

奈良工業高等専門学校竹原先生から技術者の関わりについて、地域社会やグローバル化の視点から講義いただいた。また、QRコードを利用して科学者(サイエンティスト)と技術者(エンジニア)の違いや地域社会における技術者の役割や責任について受講生と一緒に双方向で考える授業を実施された。

(2) 学生の意見や感想(抜粋)

- ・科学者と技術者の違いなど、改めて考えるとなんだろう、と思うことがたくさんありました。時代の変遷と共に、求められるものも次々と変わっていきな中で、奈良に存在する伝統的産業、工業、をどう生き残らせていくか、を考えていくのが大事なのだと感じました。現状維持だけで永続すればそれが一番楽だし、安泰なのかもしれないけれど、今の時代そうはいかないので、0から1を生み出すことだけでなく、1を使ってなにができるか考えられる人間になりたいと思いました。
- ・リアルタイムで自分が入力した意見が授業に反映されるスタイルが、大変面白かったし最後まで楽しく講義を受けることが出来た。様々な技術が発展してきている今の時代に、科学技術と奈良の伝統を組み合わせるという考えも、「伝統の継承」という型にいい意味ではまっていなくて良いなと思った。奈良の伝統が新しい形で世界に広まっていけば奈良への注目度が格段に高まり、奈良の税収が低いという問題も少しは改善するのではないかと感じた。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

“科学”や“技術”について改めて考える機会になったのであれば、幸いです。交流させていただいている奈良女子大学の先生が以前、「奈良には本物が残っている」と仰っていました。「奈良」だからこそ遺すことができる、発展させることができる技術・文化・産業があるのではないかとそんな問いを立てながら、これからも勉強を続けていきたいと考えています。

(4) 授業成果(担当教員 前川コメント)

技術者といえば理系のイメージが強いが、文系・理系に関係なく地域社会における技術者の役割・必要性を理解できたと考える。奈良に残る伝統技術をさらに先の未来につなぐ科学技術が生まれれば良いという学生の気付きも多かった。QRコードで先生からの質問結果をすぐに集計処理して前方スクリーンに反映する授業スタイルも新鮮であった。



14. 「課題発見・問題解決・提案力を養う」その1 (令和2年1月21日実施)

■ 昨年度「奈良への提案」プラン紹介

～ちはやふるの世界～百人一首の歌碑巡りと競技かるた観戦&体験

地域住民全員を観光大使に任命して地域をPRしよう！計画

■ 講演 「プランニングとは何か」 (一財)南都経済研究所 主任研究員 吉村 謙一 様

(1) 授業概要

昨年度の「奈良への提案」のうち2プランを提案した学生が発表した。(一財)南都経済研究所吉村様からは今年度の課題レポート「奈良への提案」の全般的な講評、およびプランニングの具体的手法、社会人基礎力について講義頂いた。

(2) 学生の意見や感想 (抜粋)

- ・プランニングは現状把握、課題抽出、施策立案の3つに沿って行うことでより良いものになることが分かりました。私は今回のレポートに取り組むときに奈良の現状把握をあまりしないままだったので今後このようなプランニングを行うときにはしっかり現状把握をしようと思います。人によって視点は様々であるので他人がどのようなプランニングを行なったのかを聞くことは大切だなと思いました。
- ・先輩方のプランは、ただメインの考えを記すだけではなく、予算の裏付けをしたり改善点をあげたりしていたので、とても現実的だと感じた。また、吉村さんのお話では、ターゲットを絞り込むのが大事だという点が印象的だった。ターゲットをしっかり決めることで、目標が明確になり、現実的なプランがたてられるのかなと思った。あまり意識できていなかった点だとも感じた。
- ・自分たちが考えた奈良への提案と同じテーマで、先輩方がどのようなアイデアを思いついたのか、どのような手順を踏んだのか、現実的な物にするためにどのような工夫をしたのか、たくさんを知れてよかった。100分の1の才能を3つ持っていれば100万分の1の人材になれるという考え方はとても良いと思った。

(3) 授業を担当いただいた講師からの意見・感想・メッセージ等

データ分析やプランニングの視点、模倣や組み合わせによる新しい価値の創造、自分の棚卸しと小さな強みの掛け合わせ、仮説思考などの方法論は、ぜひ何か一つでも今後の参考にしていただければ幸いです。また、社会人基礎力の中でOSとアプリの話がありましたが、自分をアップデートし続けるという意識も、今後皆様がどのようなフィールドで活躍される際にも必要な姿勢かと思います。私の授業だけに限らず、「なら学+ (プラス)」全体で得た様々な分野の知見を活かして、今後皆様のご活躍されることを祈念しております。

(4) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

2名の学生による昨年度の「奈良への提案」プラン発表は、受講生にとって自ら作成した課題レポートの見直しに多いに参考になったようである。南都経済研究所吉村様からは「なら学+ (プラス)」授業の総括に繋げるプランニングの具体的手法、また、将来に向けての「人生100年時代の社会人基礎力」について学ぶ有益な授業となった。



15. 「課題発見・問題解決・提案力を養う」その2 (令和2年1月28日実施)

■ 十津川村にて活動している学生の事例発表

■ 「奈良への提案」の発展・応用についての講義と振り返り

やまと共創郷育センター 特任教授 前川 光正

(1) 授業概要

サテライト施設のある十津川村で活動している学生の事例発表を実施した後、「奈良への提案」についての発展・応用についての講義を行い、自分のプランについて、「誰に向けての発信であるのか」「なぜ、それを提案するのか」といったことを5W1Hのワークシートを使用しながら振り返り、問題の背景や提案プランの輪郭を明確にした。

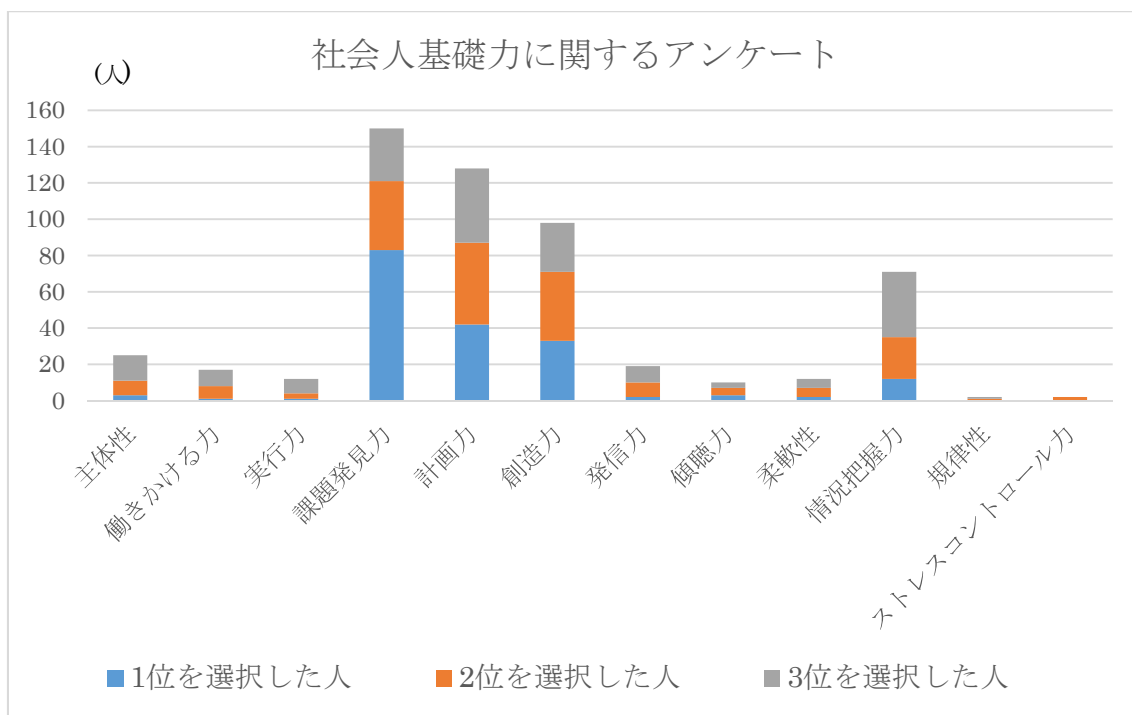
提案プランを振り返った学生は、自分のプランに対して、「ターゲットに対する観点が不足していた」「誰が主体で企画するのかとの視点が足りなかった」「資金的(金銭面)な視点が足りなかった」「実現可能性についての詳細な分析ができていなかった」「アイデアだけが独り歩きしていたような気がする」等の気づきを得た。

(2) 社会人基礎力に関するアンケートの実施

(有効回答数は182人)

「奈良への提案」課題によって、12の要素から構成される社会人基礎力のどの能力を身に付けることに役立ったかについて、役立ったと思う順に1位から3位まで回答させた。

社会人基礎力の12の能力要素のうち、考え抜く力(課題発見力、計画力、創造力)を養うのに役立ったとする回答が上位3位を占めた。



(3) 授業成果 (担当教員 前川コメント)

学生は、なら学+(プラス)の授業内容ならびに最終課題レポート「奈良への提案」を通じて社会人基礎力の構成要素である「疑問を持ち、考え抜く力」(課題発見力・計画力・創造力)を身に付けたと自己評価している。特に「課題発見力」を養うのに役立ったと回答した学生は182人中150人と、全体の82.4%を占めた。

また、「チームワーク」能力の構成要素である「情報把握力」(自分と周囲の人々や物事の関係性を理解する力)が身に付いたと71人の受講生が回答しており、1コマの授業の中で行政・民間双方からゲスト講師を迎え、様々な他者から多面的なモノの見方を養うといった授業構成の効果があらわれたといえる。

この授業科目は、主に低年次学生が受講していることから、今後PBL型要素の強い専門教育科目につなげることにより、「前に踏み出す力(アクション)」や「チームで働く力(チームワーク)」といった社会人基礎力の他の要素を身に付けていくことが期待できる。



課題レポート 『奈良への提案プラン』

なら学+（プラス）受講者に対して、授業を通じて得た知識や自分で調べたデータをもとに、提案に至った背景や目的、具体的な内容や将来展望を以下の書式にまとめる課題である。

1. プラン名 (30字程度)
2. プラン着想の経緯と理由 (150字程度)
3. プランの具体的な内容 (500字程度)
4. プランの特色 (100字程度)

【学生から提出された提案プランの一部（抜粋）】

ジャンル	奈良への提案プラン名
観光	奈良の滞在時間延長を目指した宿泊客増加プラン
観光	何度も来たいと思える奈良にするには
観光	ものづくり体験を通して奈良の魅力を全国に発信しよう！
観光	昼の街、奈良！～奈良公園セントラルパーク化計画～
観光	「奈良」に「シカ」ない夜を！～宿泊率アップ大作戦～
観光	「武」で輝く奈良
観光	なみあみだ仏っ！お参り奈良ツアー
観光	修学旅行の続きを、奈良で。
観光	バラエティーのある宿泊施設へ
観光	移動中に学ぶ、シカへの餌やり
観光	Let's play LARP (Live Action Role-Playing Game) in Nara !!
観光	デートにピッタリドキドキなら旅
社会生活	奈良県の企業を身近に感じよう
社会生活	都会っ子の感性や自立精神を豊かに！奈良の魅力たっぷりの村に留学してみよう！
社会生活	若者振興プログラム～若者が住みやすい奈良市にするために～
社会生活	奈良をごみ0の町にする、ごみ回収プロジェクト
社会生活	未来の奈良で暮らし、奈良で生きるためのテレワーク
女性活躍	働きたいけど働けない・・・とは言わせない！ママの就業応援システム
特産(繊維)	あおぞら靴下屋さん
特産(薬)	奈良にしかない薬局、心鹿（ここしか）堂
農林業	大和野菜を全国へ！野菜お届けネット宅配便
その他	奈良へのふるさと納税で思い出作り！体験型プラン

令和2年1月20日（月）に本学で開催された奈良経済同友会との交流・懇談会にて一次審査を通過した上記の22プランの一部を紹介し、県内企業関係者からコメントを得た。また提案については、今後奈良県ならびに（一財）南都経済研究所による審査を行い、優秀プランを選出する。その提案者に対し、奈良の歴史伝統観光産業といった礎をさらに発展させる『『なら』いにしえ賞』と、新たな奈良の未来を創生する『『なら』みらい賞』として表彰する予定である。



【問い合わせ先】

奈良女子大学やまと共創郷育センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町

TEL : 0742-20-3989

FAX : 0742-20-3993

URL : <http://www.nara-wu.ac.jp/yamato/index.html>

